Niigata University

4　乳頭部癌においてリンパ節転移個数は独立予後因子である

坂田　純・白井　良夫・若井　俊文
横山　直行・坂田　英子・畠山　勝義
新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野

【目的】乳頭部癌におけるリンパ節転移個数の意義を明らかにする．

【方法】D2リンパ節郭清を伴う根治術を施行された乳頭部癌51症例を対象．術中に所属リンパ節転移陽性が疑われた全身状態良好な24例において，大動脈周囲リンパ節郭清を追加．リンパ節転移個数（0，1-2，≧3）と治療成績とを比較．観察期間中央値は121か月．

【成績】リンパ節転移陰性例は25例，陽性例は26例であり，両群の予後に差を認めた（P＝0.0001）．転移陽性26例中8例が3年以上生存し，5例が5年以上生存した（5生率28％，生存期間中央値27か月）．リンパ節転移個数は有意な独立予後因子であった（P＜0.001）．リンパ節転移個数1-2個の予後は，3個以上の予後と比較して良好であった（P＜0.0001）．

【結論】乳頭部癌におけるリンパ節転移個数は，予後を強く反映する．D2郭清は個数2個以下のリンパ節転移を良好に制御する．

5　慢性膵炎に対する手術症例の検討

大谷　哲也・斉藤　英樹・山本　睦生
片柳　憲雄・桑原　史郎・山崎　俊幸
松原　洋孝
新潟市民病院外科

慢性膵炎は持続的な炎症性疾患であり，病態に応じて多彩な臨床症状が出現する．今回，当科で経験した慢性膵炎手術例を検討した．

【対象と方法】過去8年6ヶ月間の慢性膵炎手術19例（男15，女4）を対象とし，原因，症状，手術成績，治療効果及び予後について検討した．

【成績】

1．原因：アルコール性13例，胃癌術後1例，膵胆管合流異常術後1例，不明4例．

2．症状：腹痛79％，黄疸26％，発熱16％，嘔吐11％，体重減少5％，下血5％．

3．手術成績：腫瘤形成性膵炎6例及び膵石症2例は，膵切除（PpPD3，DpPHR3，DP2）が施行された．膵管著明拡張例は3例で，膵管空腸側々吻合術が施行された．膵仮性嚢胞4例中3例は嚢胞空腸吻合術が，他の1例はドレナージが施行された．胆管狭窄3例は胆管空腸吻合術が施行された．膵石の乳頭部陥頓を1例に認め，切石と十二指腸乳頭形成術がなされた．脾静脈閉塞を伴う胃静脈瘤を1例に認め，脾摘術及び血行郭清術が施行された．DpPHR 1例は術後胆管狭窄のため再手術を要した．側々吻合術2例に合併症を認め1例は術後仮性動脈瘤より出血し，開腹止血術が施行された．他の1例は膵液漏がみられたが自然治癒した．平均入院期間は23日であった．

4．治療効果及び予後：腹痛は全例，軽快又は消失した．膵切除8例中1例（DpPHR）は，術後1年で膵炎が再燃し，仮性嚢胞を形成した．側々吻合術3例中1例は膵炎が再燃しアルコール再開が原因と考えられた．

【結語】

(1) 腫瘤形成性膵炎では膵切除が有用であるが，慢性膵炎の病態は多岐にわたり，膵管，胆管の変化に応じ適切な術式を選択することが重要である．

(2) 術後の経過観察は必要で，禁酒を含めた生活面の指導が必須であると考えられた．

6　肝細胞癌に対する肝切除において術前血小板減少症はmortalityを予測する

金子　和弘・白井　良夫・若井　俊文
坂田　純・横山　直行・畠山　勝義
新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野

【目的】肝細胞癌におけるK_{ICG}による肝切除術式選択の妥当性を評価し，mortalityに影響を与える危険因子を明らかにする．

【方法】根治切除が施行された肝細胞癌198症例を対象とした．20種類の臨床病理学的因子と

NII-Electronic Library Service